

## 現代朝鮮語の意志形に関する記述的考察

平 香織  
神田外語大学

### 1. はじめに

現代朝鮮語では意志や意図を表す形態, 形式がいくつか存在する。この中には意志や意図のマーカ―を持つものだけでなく, 直説法叙述形として分類されるⅠ-습니다/Ⅱ-됩니다, Ⅰ-는다/Ⅰ・Ⅱ-니다も含まれる。しかしながら直説法叙述形という点でⅠ-습니다/Ⅱ-됩니다, Ⅰ-는다/Ⅰ・Ⅱ-니다と同様のⅢ-요が意志の表現に関わることを述べた研究はほとんど見当たらない。

本研究では, 意志を表すⅡ-르게(요)の振る舞いを基にⅢ-요で表される意志との違いを比較しながら考察する<sup>1)</sup>。

### 2. 先行研究

#### 2.1 意志の実現形式

現代朝鮮語において意志や意図を表す形態には, 終止形語尾である‘-르게(요)’, ‘-르래(요)’や蓋然性接尾辞‘-겠-’, 分析的な形の‘-려고 하다’, ‘-르까하다’などが挙げられる<sup>2)</sup>。「意志」と言っても話し手の意志を表すものと聞き手の意志を問うものがあり, 上述した形態の中にも話し手の意志のみを表すものもあれば, 聞き手の意志を問うことが可能な形態もある。また, 前述したように直説法叙述形の‘-습니다/-됩니다’, ‘-는다/-니다’によっても意志が表される。

(1) (傘を売り歩く主人公) 우산! 우산! (どこからか声) 우산. (主人公)

예! 갑니다! <아근철/불개미 1>

「傘! 傘!」「傘!」「はいっ! 行きます!」 (野間 1988:55)

野間(1988)は‘-겠-’の考察の中で, 例文(1)を挙げながら‘-겠-’を使用せずに‘-됩니다/습니다’を使用しても話し手の意志を表し得ると述べており, 意志の表明について①主体は話し手自身を含む, ②意志動詞<sup>3)</sup>を用言とする, ③過去形を取らない, という3つの条件を満たしていれば大なり小なり意志の表明として機能することを指摘している<sup>4)</sup>。

この3つの条件を満たすことで話し手の意志を表すことができるとすれば, ‘-습니다/-됩니다’, ‘-는다/-니다’と同じ直説法叙述形に属する‘-아(요)’も話し手の意志を表すことができると考えられる。しかし, ‘-아(요)’が意志を表すという観察はほとんど見られず, ‘-아(요)’についてこれまで多く議論

されてきたことは叙述, 疑問, 勧誘, 命令を表すという点であった。

- (2) a. 밥 먹어.  
 b. 밥 먹어?  
 c. 밥 먹어!  
 d. (같이) 밥 먹어. [作例]

抑揚や文脈から例文(2a)は叙述文, 例文(2b)は疑問文, 例文(2c)は命令文, 例文(2d)は勧誘文を表すと判断され, ‘-아(요)’は少なくとも 4 つの意味のいずれかが付与される。この 4 つのうち一定の条件の下で話し手の意志が現れるのは例文(2a)の叙述文として使用されるものであろう。叙述文が意志を表すというのは日本語においても見られる現象である。例えば, 仁田(1991)では, 日本語のスル形は基本的に情報伝達を企図するところの<述べ立て>といったモダリティを表す形式であり, それが一人称ガ格, 非過去形, 意志動詞を取ることによって, 話し手の意志の表現といった意味合いを帯びると指摘している。つまり, 叙述文がいくつかの条件を満たすことで特別なマーカを用いなくとも意志が表れるということである。ただし, これを判断するには意志を表す際の形態・統語論的条件だけでは不十分であり, 文脈や発話状況を一つ一つ検討するしかない。特に‘-아(요)’の場合には同じ形態で 4 つの意味を表す可能性があり, 品詞による共起制約がないため‘-아(요)’が現れる全ての語彙を把握するには限界がある。

そこで次節では‘-아(요)’の考察に先立ち, 意志を表す形態でかつ待遇法でも同じ等級に属する‘-르게(요)’に関する先行研究を概観し, ‘-르게(요)’の特徴を把握する。

## 2.2 ‘-르게(요)’の特徴

‘-르게(요)’が表す意志とはどのようなものか。‘-르게(요)’がこれまでどのような位置づけ, 特徴づけがなされてきたかを概観する。

既存の研究を見ると‘-르게(요)’は叙法の分類上「約束法」, 「意志法」, 「叙述法」のいずれかで扱われてきたとすることができる。

まず, 「約束法」を設けている서정수(1996)を見てみよう。서정수(1996)は以下に挙げる理由から‘-르게(요)’を「約束法」という独自の叙法範疇に入れている。

- i 各待遇等級形態がもともと整っている。

- (3) a. 내가 네 집에 내일 들르마. [마]  
 b. 내가 네 집에 내일 들르께5). [르께]

- c. 나도 자네와 같이 감세. [고세]
- d. 제가 먼저 가리다. [리다]
- e. 제가 먼저 갈게요. [르께요]
- f. 제가 말씀을 드리오리다. [오리다] (서정수 1996:342)

ii 動作性の用言とだけ共起するという点で叙述法や疑問法と区分される。また, 否定方式で‘안’, ‘-지 않다’が使用されるが, 命令法の否定要素‘말(다)’とは共起しない。

- (4) a. 내가 네 집에 들르마.
- b. 나는 집에 있으마.
- c. \*내가 좋으마.
- (5) a. 그러면 내일 네 집에 안 가마.
- b. 그러면 내일 네 집에 가지 않으마.
- c. \*그러면 내일 네 집에 가지 말마. (同上 pp.342-343)

iii 約束法は間接引用法で独自の叙法範疇を構文論的に確認することができ, 基本形態‘-마’は間接引用法の補文字‘-고’と結合し内包文でもその独自性を表す。

- (6) a. 그 사내는 종교를 믿으마고 아내에게 말했다.
- b. 그 사내는 종교를 믿으라고 아내에게 말했다.
- c. 그 사내는 종교를 믿느냐고 아내에게 물었니?
- d. 그이가 나를 도와 주마고 말했다.
- e. 그이가 나를 도와 주라고 말했다.
- f. 그이가 나를 도와 주자고 말했다. (同上 p.344)

iv 話し手自身の行動を約束する態度を見せながらも聞き手の行動とは無関係であるという叙法的意味機能の面でも独特な性格を見せる。

以上4点を挙げ, 「約束法」という独立した範疇を設けるべきであるというのが서정수(1996)の主張である。

一方, 菅野(1991)では法の中に意志法を設け, 意志法に属する形態を表1のように提示している。同じ意志法に属し, 叙述形と疑問形を有する‘-르래(요)’とは異なり, ‘-르께(요)’は叙述形しか持たないため聞き手の意志を問うことはできず, 話し手の意志を表すことしかできない。

表 1. 意志法(菅野 1991:1025)

待遇法		上 称	中 称	等 称	下 称
意 志 法	叙 述 形			-고 세	-마
		-르 게요		-르 게	
	叙 疑 述 問 形 形	-르 래요		-르 래	
	疑 問 形	-게요		-게	

서정수(1996)や菅野(1991)のように独立した法を認める立場以外は「叙述法」として扱っている(고창운 1995, 한길 2004)。「-르게(요)」を「約束法」として扱うのか, 「意志法」として扱うのか, または「叙述法」として扱うのか。これは呼称を問題視するのではなく, 「-르게(요)」が持っている機能によって分類されるべきものと考え。では, これまで「-르게(요)」の機能についてどのようなことが明らかにされてきたのだろうか。

これまでの研究を見ると, 고영근(1974), 고창운(1995), 서정수(1996), 윤석민(2000), 김태엽(2001), 안柱鎬(2002), 한길(2004)などによってとり得る品詞の制約や人称制約, 文法化の過程について記述がなされてきた。ここでは한길(2004)を基に「-르게(요)」の形態・統語論的特徴と意味・語用論的特徴を概観する。

한길(2004)は, 「-르게(요)」の形態・統語論的な特性として主語が第一人称で話し手と同一であるため尊敬接尾辞「-시-」と共起できず, 現在以降の約束を意味するため過去時制接尾辞「-ㅁ-」と共起できないとしている。用言との共起については, 動作主(agent)の能動的な行動を表す行動性の動詞のみが共起可能であり(7a), 非行動性の動詞とは共起できず(7b, 7c), 形容詞や指定詞とは共起できない(7d, 7e)という制約があることを述べている。

- (7) a. 내가 떠나기 전에 한번 더 올게.
- b. \*내가 내일 몹시 않올게.
- c. \*내가 오늘밤 지칠게.
- d. \*내가 내일 바쁠게.
- e. \*내가 이 다음에 선생일게. (한길 2004:222)

また, 引用文にする時の「-르게(요)」は「-겠다」に中和されると述べ(8a)<sup>6)</sup>, 遂行分析(performative analysis)を行う場合, 遂行動詞を「약속하다」と見るのが妥当であるとしている(8b)。

- (8) a. 갑→을: 저기서 기다릴게.  
을→병: (갑이 나에게) 저기서 기다리겠다고 한다.  
b. 무엇이든 하라는 대로 할게.  
⇒내가 너에게 [무엇이든지 하라는 대로 하겠다]고 약속한다.  
(同上 p.225,p.228)

次に意味的特性については話し手の未来(今後)の行動を聞き手に半言で約束するという意味的特性があるとしつつも, 例文(9)のような場合には「告知」の意味として解釈されることもあるとしている。この場合には約束の意味は弱化あるいは喪失する。

- (9) a. 나 목간 좀 하고 올게.  
b. 이 앞 전당포 좀 다녀올게.  
c. 나 거리에 좀 다녀올게.  
d. 나 그만 갈게. (同上 pp.233-234)

さらに, 約束の意味として把握される場合には話し手の今後の行為が聞き手に利益となる場合に使用され, 告知の意味として理解される場合には話し手の今後の行為が聞き手に利益となるかどうかは判別できなくなるという語用論上の特性を持っているとしている。例文(10a)に見られるような聞き手に利益とならない「たたく」という行為とは共起しにくい, 例文(10b)のような文脈によっては可能であることを示している。

- (10) a. ?내가 너를 때릴게.  
b. 너를 착한 사람으로 만들려면 때려야 돼. 내가 너를 때릴게.  
(同上 p.233)

以上, 概観してきた한길(2004)の考察の中で特に注目すべき点は, '-르게(요)'が持っている意味として「約束」と「告知」が挙げられた点だろう。'-르게(요)'には「約束」という意味が見られはするが, 全ての使用で見られるわけではないようである。また, 語用論上の特性として「約束」の意味で解釈される時には「聞き手に利益になる」場合に使用されるという点にも注意しなければならない。한길(2004)は「意志」という用語は使用していないが, '-르게(요)'の形態・統語論的特性として主語が第一人称で話し手と同じであるという点やとり得る品詞, 過去時制接尾辞との共起制約などから考えて意志を表す条件を満たしており, さらに「約束」も「告知」も話し手の意志を発話したことに伴って見られる意味と捉えることができることから, '-르게(요)'の一次的機能を「意志」と見なし, 「約束」や「告知」はあくまでも

文脈や発話状況によって表れる二次的な機能と見ることができる。

### 3. 考察

2.1 で述べたように‘-아(요)’は同じ形態で 4 つの意味を表すことができ、また品詞による共起制約もないため、‘-아(요)’が意志を表しているかどうかというのは文脈や発話状況を検討するよりほか方法がない。しかし‘-아(요)’を伴う全ての用例を検討するには限界がある。そこで意志を表す‘-르게(요)’が共起する語彙を頻度別に分類し(3.1)、頻度の高い語彙を基に‘-아(요)’の用例を拾い上げ、その中から意志を表すと思われる例文を取り出し、‘-르게(요)’との違いを観察する(3.2)。

#### 3.1 ‘-르게(요)’を伴う語彙

今回使用したデータは 1993 年以降の韓国ドラマ・映画のシナリオをインターネット上からダウンロードし<sup>8)</sup>、テキストファイル化した 4.42MB である。そのうち‘-르게(요)’が使用された用例は 613 例であった。613 例がどのような語彙と共起したかを頻度別に示すと以下のようなようになる。

表 2. ‘-르게(요)’を伴った語彙別頻度

가다「行く」	128	되다「なる」	3	말다「引き受ける」	1
주다「あげる, やる」	106	두다「おく」	3	몰다「追い込む」	1
하다「する」	86	듣다「聞く」	3	모시다「仕える」	1
드리다「差し上げる」	51	마시다「飲む」	3	묻다「尋ねる」	1
오다「来る」	50	싸우다「喧嘩する」	3	바꾸다「変える」	1
보다「見る」	28	갈다「敷く」	2	비비다「こする(へつらう)」	1
안 9, -지 않다 7 <sup>9)</sup>	16	끓이다「沸かす」	2	살리다「養う」	1
있다「いる」	12	받다「受ける」	2	쏘다「おごる」	1
기다리다「待つ」	12	보내다「送る」	2	씻다「洗う」	1
내다「出す」	10	일어나다「起きる」	2	엎드리다「うつぶせになる」	1
사다「買う」	8	읽다「読む」	2	여기다「認める」	1
갚다「返す」	7	지키다「守る」	2	입다「着る」	1
그러다「そうする」	7	치다「かける」	2	줄이다「減らす」	1
찍다「撮る」	7	걸어다니다「歩き回る」	1	지우다「消す」	1
쓰다「使う」	6	긋다「引く」	1	차리다「調える」	1
끊다「切る」	5	넘기다「渡す」	1	찾아뵙다「お伺いする」	1
놓다「置く」	5	다니다「通う」	1	키우다「育てる」	1
자다「寝る」	5	대다「当てる」	1	타다「乗る」	1
먹다「食べる」	4	들르다「立ち寄る」	1	태우다「(煙草を)吸う」	1
걸다「かける」	3	만들다「作る」	1	計	613

表 2 を見ると‘가다’が最も多く 128 例(20.9%)を占め, 次いで‘주다’が 106 例(17.3%), ‘하다’動詞が 86 例(14.0%)と続いている。存在詞‘있다’は「いる」の意味でのみ使用が確認された。否定と共起した語彙も含めて‘-르게(요)’と共起する語彙は全て意志動詞に分類されるものであった。頻度の高かった‘가다’, ‘주다’, ‘하다’動詞, ‘드리다’, ‘오다’, ‘보다’と否定を表す‘안’, ‘-지 않다’と共起した例文を検討し, ‘-르게(요)’と共起する語彙による特徴を探ってみる。まず, ‘가다’の用例から見ていこう。

- (11) a. 시간이 이렇게 됐네...미안해...나 약속이 있어. 먼저 갈게. [클]<sup>10)</sup>  
 「こんな時間だ...ごめん...私約束があるの。先に帰るね。」  
 b. 아무 일 아니니까 바로 돌아갈게. [엄]  
 「何でもないのですぐに帰るよ。」  
 c. 나도 같이 나갈게. [쉬]  
 「私も一緒に出る。」

‘가다’は移動動詞<sup>11)</sup>に属するが 128 例の語彙の内訳を見ると‘가다’(111 例), ‘들어가다’(6 例), ‘나가다’(4 例), ‘올라가다’(3 例), ‘내려가다’(2 例), ‘돌아가다’(1 例), ‘가져가다’(1 例)であった。同じ移動動詞である‘오다’の例文もここで見てみよう。

- (12) a. 공연 전까진 올게. [별]  
 「公演前までには来るよ。」  
 b. 내가 대신 회사에 들러 갖고 올게. [엄]  
 「私が代わりに会社に寄って持って来るよ。」  
 c. 저녁거리 좀 사올게요. [일]  
 「夕飯の材料をちょっと買って来ます。」

‘오다’に関連する語彙の内訳を見ると‘오다’(20例), ‘갔다 오다’(18例), ‘다녀오다’(5例), ‘사오다’(2例), ‘갖고 오다’(2例), ‘나오다’(1例), ‘고쳐 오다’(1例), ‘가져 오다’(1例)であった。

‘-르게(요)’が移動動詞‘가다’, ‘오다’を伴って現れる頻度は全体の29%であり, 他の語彙と比べると高い割合を占めている。意味的には「告知」で解釈されることが多いようであり, 한길(2004)が告知の意味を表すとして挙げた例文も全て移動動詞と共起するものであった(例文9)。ただし移動動詞と共起したからといって必ずしも告知の意味が現れるわけではない。

- (13) A: 나야!  
 B: 아니, 오늘 또 안 들어와요?

- A: (속삭이듯) 요즘 분위기가 안 좋아. 몸조심해야지.  
 B: 당신, 내일이 무슨 날인지나 알아요?  
 A: 아, 물론이지. 내일은 꼭 갈게!  
 B: 꼭이에요! [투]

「俺だ。」「今日もまた帰って来ないのですか?」「(ささやくように)最近, 雰囲気良くないんだ。言行を気をつけないと。」「あなた, 明日が何の日なのか分かっていますか?」「ああ, 勿論だよ。明日は必ず帰るよ。」「必ずですよ!」

例文(13)のAとBの発話, そして副詞‘꼭’が共起していることからここでの‘갈게’は約束として解釈できる。このように移動動詞であっても文脈や共起する副詞によって約束として解釈される場合がある。

次に頻度の高かった語彙は‘주다’である。‘주다’は授受動詞と言われるが朝鮮語の授受動詞について奥津(1983)では, 「日本語のように「クレル・クダサル」「ヤル(アゲル)・サシアゲル」「モ라우・イタダク」のような均衡のとれた敬語・非敬語の対応はない」(p.26)と述べ, 与え手主語(‘주다’), 受け手主語(‘받다’)の対立のある二語体系に‘드리다’という謙讓語が加わった不均衡な三語体系であると論じている。‘-게(요)’と共起した‘주다’の例では本動詞として使用される場合と‘-아 주다’として使用される場合, そして‘-아다 주다’の形式が見られた。それぞれの頻度を示すと本動詞としての‘주다’が14例(14a), ‘-아 주다’で現われたのが80例(14b), ‘-아다 주다’が13例(14c)であった。

- (14) a. 엄마가 좀 있다 밥 줄게, 우리 코코 착하지? [미]  
 「ママがもう少ししたらご飯をあげるね, うちのココはいい子だよ  
 ね?」  
 b. 우리 둘 중 누가 언니인지 맞추면 깎아 줄게. [고]  
 「私たち2人のうちどちらが姉か当てたらまけてあげる。」  
 c. 내가 데려다 줄게. [봄]  
 「僕が送ってあげる。」

例文(14a)は犬にえさをやる時の発話, (14b)は聞き手に対して値段を下げてあげるといふ発話, (14c)は聞き手を家まで送ってあげると発話した例であり, いずれも話し手の行為が聞き手にとって利益となると考えられるため約束の意味が表れている。‘주다’の謙讓形である‘드리다’も頻度が高く, ‘주다’と同様に本動詞の他に‘-아 드리다’, ‘-아다 드리다’と共起した例があり, それぞれ6例, 27例, 2例という頻度で現われた。それ以外に‘부탁드리다’「お願い申し上げます」, ‘맡김드리다’「申し上げる」, ‘사과드리다’「お詫び



申し上げる」などと共起する例(15d,15e)が見られた<sup>12)</sup>。

- (15) a. 유용할진 모르겠지만 정보 하나 드릴게요. [날]  
 「役に立つかは分かりませんが情報を一つ差し上げます。」
- b. 사정을 말씀 해 주시면 도와 드릴게요. [세]  
 「事情をお話下されば手伝って差し上げます。」
- c. 괜찮아요. 가세요. 모셔다 드릴게요. [집]  
 「大丈夫です。お行き下さい。ご案内申し上げます。」
- d. 잘 알았습니다. 다시 연락드릴게요. [조]  
 「わかりました。もう一度連絡差し上げます。」
- e. 안녕하세요, 한은수라고 해요. 잘 부탁드릴게요. [봄]  
 「こんにちは、ハンウンスといいます。どうぞよろしく願い申し上げます。」

謙讓語である‘드리다’を使用するということは、話し手は聞き手を高く待遇しなければならぬ立場にあるため、話し手の行為は聞き手に被害を与えたり失礼となるものではないことが前提となる。そのため基本的に聞き手にとって利益となる行為と解釈され、約束としての意味が強くなる。ただし、例文(15e)のように‘드리다’に前接する語彙によっては慣用句的な表現として使用されることもあり、聞き手に利益となるかどうか曖昧になることもあるようである。

次に‘하다’動詞について見てみよう。‘하다’動詞の内訳は‘하다’「する」が27例, ‘전화하다’「電話する」13例, ‘연락하다’「連絡する」10例, ‘잘하다’「よくする」5例, ‘노력하다’「努力する」5例, ‘사과하다’「詫げる」4例, ‘약속하다’「約束する」3例, ‘이야기하다’「話す」3例, ‘부탁하다’「頼む」が2例であり、以下, ‘간호하다’「看護する」, ‘말하다’「言う」, ‘반성하다’「反省する」, ‘사례하다’「謝礼する」, ‘소개하다’「紹介する」, ‘운전하다’「運転する」, ‘전하다’「伝える」, ‘조심하다’「注意する」, ‘주문하다’「注文する」, ‘초대하다’「招待する」, ‘출발하다’「出発する」, ‘취소하다’「取り消す」, ‘취하다’「(処置を)取る」, ‘확인하다’「確認する」が1例ずつの順となっている。

- (16) a. 다 내가 알아서 할게. 중요한 순간엔 다들 혼자니까...안 그래?  
 「全部私が判断してやるよ。重要な瞬間はみんな一人だから...そうじゃない?」 [바]
- b. 저 많이 노력할게요. [세]  
 「僕たくさん努力します。」
- (17) a. 미안해요... 기분 나쁘면 사과할게요... [세]

「ごめんなさい...気分が悪かったら謝ります...」

- b. 약속할게. 너한테 좋아한다든지, 나랑 어떻게 다시 하자든지...  
그렇게 안 해. [세]

「約束する。君に好きだとか、僕とまたどうにかして付き合おうとか...そんなふうに言わない。」

ここで興味深いのは例文(17)のような遂行動詞を伴った例が見られる点である。J.L.オースティン(1978:12)によると遂行動詞とは「発言を行なうことがとりもなおさず、何らかの行為を遂行すること」で、このような種類の文や発言を「行為遂行的文(performative sentence)」、 「行為遂行的発言(performative utterance)」と名付けている。遂行動詞は発話自体でその行為を行うことが明示される語彙であるので、例文(17a)では‘사과하다’という発話と同時に「詫びる」という行為が行われ、例文(17b)では‘약속하다’という発話と同時に「約束する」という行為が行われていると解釈できる。

続けて‘보다’の用例を見ていく。‘보다’は本動詞で使用されている例はなく、全て‘-아 보다’の形で使用された例であり、約束よりも告知の意味として使用される方が多い。

- (18) a. 내일 만나면 자세히 얘기해 볼게! [클]

「明日会ったら詳しく話してみる!」

- b. 그럼, 다른 어휘를 골라 볼게. [날]

「だったら、他の語彙を選んでみる。」

最後に否定と共起した例を見てみよう。否定を表す表現には‘안’と‘-지 않다’の2つがあるが、‘안’と共起した語彙は、‘그려다’が2例、‘하다’、‘말하다’、‘변명하다’「弁明する」、‘보다’、‘받다’、‘때리다’「たたく」、‘울다’「泣く」がそれぞれ1例であった。一方、‘-지 않다’と共起した語彙は‘잊다’「忘れる」が2例、‘떠나다’「離れる」、‘방해되다’「邪魔になる」、‘가다’、‘굴다’「ふるまう」、‘강요하다’「強要する」がそれぞれ1例であった。

- (19) a. 선생님 제발 용서해 주세요. 다신 안 그럴게요. [기]

「先生、どうか許して下さい。二度とそうしません。」

- b. 믿어 달라고 강요하진 않을게요. [동]

「信じてくれと強要することはしません。」

‘-르게(요)’が否定表現を伴って表れる場合の意味を考えると、話し手がある行動をしないことが聞き手にとってよいと判断される場合が多いため、約束の意味が表れることが多い。

以上, ‘-르게(요)’と共起した語彙について頻度別にそれぞれの例を見てきた。その結果, ‘-르게(요)’は移動動詞, 特に‘가다’と共起する頻度が高く, その場合は告知の意味で解釈されることが多い。また, 授受動詞や否定表現と共起した場合には約束の意味で解釈されることが多いことが分かった。

### 3.2 ‘-아(요)’との比較

本節では, ‘-아(요)’が使用された例文を‘-르게(요)’で置き換えが可能かどうかを中心に‘-아(요)’で表される話し手の意志と‘-르게(요)’で表される話し手の意志の違いを考察する。

データは‘-르게(요)’の分析に使用したのと同じもので, 3.1 で挙げた頻度の高い6つの語彙が‘-아(요)’と共起しているものを取り出した。そしてそれらの例文の発話状況を観察し, 話し手の意志を表していると思われる例文を抽出した。‘-아(요)’, ‘-르게(요)’で話し手の意志がどの程度現れたかを示したのが表3である。

表 3. 意志を表す‘-아(요)’, ‘-르게(요)’の語彙別頻度

	‘-아(요)’	‘-르게(요)’
가다「行く」	21	128
주다「あげる, やる」	0	106
하다「する」	15	86
드리다「差し上げる」	4	51
오다「来る」	2	50
보다「見る」	0	28
안, -지 않다	27	16

‘-아(요)’と共起した語彙の内訳を見ると, ‘가다’16例, ‘나가다’4例, ‘들어가다’1例, ‘하다’動詞 15例のうち, ‘부탁하다’6例, ‘결정하다’, ‘결혼하다’, ‘맹세하다’, ‘선택하다’, ‘심판하다’, ‘약속하다’, ‘출국하다’, ‘하다’, ‘행동하다’が各1例, ‘드리다’4例のうち, ‘축하드리다’1例, ‘부탁드리다’3例, ‘오다’2例, 否定 27例と共起した語彙は, ‘가다’13例, ‘하다’9例, ‘오다’2例, ‘주다’1例, ‘들어가다’1例, ‘들아가다’1例であり, 合計 69例であった。‘-르게(요)’に比べて‘-아(요)’の形で話し手の意志を表す例が少ないこと, 意志を表す‘-아(요)’の中では否定を伴う場合<sup>13)</sup>が多いことが特徴的である。では実際に例文を見ていくことにしよう。

(20) 서희모: 서희야, 엄마 금방 와. 엄마 금방 올 거니까 잠깐만 언니 오빠들이랑 놀고 있어. [세]

ソヒの母「ソヒ, 母さんすぐ来るよ。母さんはすぐに来るから少しだけお姉ちゃんお兄ちゃんたちと遊んでいて。」

(21) “옛날부터 나는 형이 참 싫습니다... 내가 안 하구 못하는 것만 골라서 하는 게 보기 싫구 밉네요. (일어나며) 계산은 형이 해요. 나 먼저 가요.” [세]

「昔から僕は兄貴が本当に嫌いです。僕がやらないこと, できないことだけ選んでやるのが見ていて嫌で憎らしいです。(立ち上がり) 計算は兄貴がして下さい。僕は先に帰ります。」

(22) 은희: 다른 작가랑 하세요. 전 지금 하는 것도 힘들어요.

태호: 동현인 어때? (동현에게) 괜찮겠지?

동현: 네. 크게 지장이 없다면...

은희: (동현의 대답에 짜증나서) 일을...하고 안 하고는 내가 결정 해요. 작가에게는 선택권도 없어요? [접]

ウンヒ「他の作家とやって下さい。私は今やっているものも大変です。」

テホ「トンヒョンはどう? 大丈夫だよね?」

トンヒョン「はい。大きく支障がないと言うなら...」

ウンヒ「(トンヒョンの返事にいらいらして) 仕事を...するしないは私が決めます。作家には選択権もないのですか?」

例文(20)は移動動詞である‘오다’を使用して話し手である母親が子供に向かって「(すぐに)来る」ことを発話した例であり, 例文(21)は移動動詞‘가다’を使用し, 兄に対して「先に帰る」ことを発話した例である。また例文(22)は自分が引き受けた仕事を手伝って欲しいというテホに, ウンヒは今やっている仕事も大変であると答え, 「(仕事をするか, しないかは)私が決める」と述べている。3例とも‘-아(요)’の形で話し手の意志が表れているのが確認できる。

次は頻度の高かった否定を伴った例である。

(23) 연이: 너 노래 잘한다니까. 참, 나 너한테 줄 선물 갖구 왔는데.

순애: 뭐데, 영영.

연이: 울면 안 줘. [별]

ヨニ「あなたは歌がうまいってば。そうだ, 私あなたにあげるプレゼントを持ってきたんだけど。」

スネ「(泣きながら) 何, わあわあ。」

ヨニ「泣くならあげない。」

- (24) 선영 1:시간 없어. 어서 가.  
수현 1:난 안 가.  
선영 2:가든 안 가든 나는 가.  
수현 2:내 말 들어!  
선영 3:어서 가!  
수현 3:안 가! [은]  
ソニョン 1 「時間がないわ。早く行って。」  
スヒョン 1 「俺は行かない。」  
ソニョン 2 「行こうと行くまいと私は行く。」  
スヒョン 2 「俺の言うことを聞け。」  
ソニョン 3 「早く行って。」  
スヒョン 3 「行かない。」

例文(23)は歌をうまく歌えなかったと泣いているスネをヨニがなだめており、プレゼントを持ってきたことを述べている場面である。「泣いているなら(プレゼントを)あげない」という発話にヨニの意志が表れていると解釈できる。例文(24)は早く行くことを望んでいるソニョンに対してスヒョンは「行かない」という意志を表わしている。例文(23)の「(プレゼントを)あげない」という行為、例文(24)の「行かない」という行為が聞き手に利益にならないという点でこの2つの例は共通している。この2例について‘-르게(요)’への置換が可能であるかを調べてみた。

- (23') 연이:너 노래 잘한다니까. 참, 나 너한테 줄 선물 갖구 왔는데.  
순애:뭔데, 영영.  
연이:울면 \*안 줄게.

- (24') 선영 1:시간 없어. 어서 가.  
수현 1:난 ??안 갈게.  
선영 2:가든 안 가든 나는 가.  
수현 2:내 말 들어!  
선영 3:어서 가!  
수현 3:\*안 갈게!

例文(23')のように‘안 줘’を‘안 줄게’に置き換えることは不可能であり、例文(24)の場合は수현 1 の発話が置き換えると不自然、수현 3 は置き換え不可能であるという母語話者の観察が得られた。

もう一つ、否定を伴った例を見てみよう。

- (25) 석우:넌 너무 용기가 없어! 좋아하면 밀어붙이는 거야!  
 상민:뭐라고 했나니까?  
 석우:...대답 안 해...너한테...상처 주기 싫으니까. [클]  
 ソグ「お前は勇気がなさすぎる!好きなら一気にアタックするんだよ!」  
 サンミン「何て言ったのかってば?」  
 ソグ「...答えない...お前を傷つけるのが嫌だから。」

例文(25)は、サンミンが好意を抱いている第三者にソグが電話をし、サンミンの思いを伝えたがよい返事が得られなかったという状況で、第三者がどのような返事をしたのかを知りたがっているサンミンに対してソグが「答えない」と発話した場面である。母語話者によるとこの例文も‘-ㄹ게(요)’への置き換えが不自然であるという。

例文(20)から例文(25)のうち例文(20)を除くと、話し手の意志を聞き手が好意的に受け入れるとは判断しにくい状況で使用されているため、話し手がこれから行おうとする行為が聞き手に利益を与えるものではないと言える。このことから‘-아(요)’で表される意志には、‘-ㄹ게(요)’が使用される時に二次的に表れる約束の意味が表れにくいと考えられる。

そして話し手と聞き手の発話の場に注目してみると、例文(21)は小さい頃から兄のことが嫌いだったと述べた上で「先に帰る」と発話しており、例文(22)では仕事を手伝わせようとするテホに対して話し手は苛立ちを見せ「仕事をする, しないは自分が決める」と発話している。つまり、‘-ㄹ게(요)’に置き換えることができないとされる例は、話し手と聞き手の関係がよくない状況であるということが出来る<sup>14)</sup>。

さて、‘-아(요)’で表れる例文を検討していく中で、文脈や発話状況を考慮しても話し手の意志を表しているかどうか判断に迷うものもいくつか見られた。

- (26) 나나:아뇨! 중국 가요.  
 지단:중국?  
 나나:다시 와요. 걱정 마세요. (싱긋 웃으며) 어쨌든 무슨 일이 있어도 가는 날은 맞춰야 돼요. [러]  
 ナナ「いいえ!中国に行きます。」  
 チダン「中国?」  
 ナナ「また来ます。心配しないで下さい。(にっこり笑って)とにかく何があっても行く日は合わせなければなりません。」

- (27) 총각:(액자를 다시 당기며) 그럼 다음에 주인 있을 때 오세요.

보경:아저씨 왜 이렇게 말이 안 통해요? 저 여기 다신 안 와요.  
未婚の男性「(額縁を再び引っ張って)じゃあ今度主人がいる時にいら  
して下さい。」  
포ギョン「おじさん, なぜこんなに話が通じないのですか?私ここ  
にはもう 来ません。」[돼]

例文(26)の「また来ます」は来る意志があることを述べているのか、再び  
来ることになっている予定を述べているのか曖昧である。同じように例文(2  
7)の「もう来ません」もポギョンの意志なのか、あるいは来る用事がないこ  
とを述べているのか判断しにくい。同じ‘오다’を使用した例文(20)に比べる  
とこの 2 例からは話し手の意志が読み取りにくい。今ひとつ例文を参照さ  
れたい。

(28)미단:제발...이대로 날 내버려 둬요.

R:지금 내 가슴은 갈갈이 찢겨 절레가 된 기분이야. 미련하게도  
천년을 하루같이 한 여자만을 사랑한 남자가 있어. 그 시간도  
모자라 그의 사랑이 무참히도 짓밟히고 있어. 세상은 항상 내게  
이런 식이었지. 낯선 타인처럼 등을 돌리고 언제나 비웃듯 나를  
손짓해.

미단: ....

R:하지만 이젠 아냐. 내가 그들을 심판해. 돌린 그 등이 얼마나  
시리고 아픈지 기다림의 고통이 얼마나 처절한 것인지 보여주겠  
어. [은]

미단 「どうか...このまま私を放っておいて。」

R 「今, 俺の胸はびりびりに引き裂かれた雑巾になった気分だ。未練  
がましくも千年を一日のように一人の女だけを愛した男がいる。  
その時間でも足りなく彼の愛が無残にも踏みにじられている。世  
間はいつも俺にこんなふうだったさ。見知らぬ他人のように背を  
向けていつでもあざ笑うかのように俺に手ぶりをする。」

미단 「...」

R 「でも今は違う。俺が彼らを 審判する。向けたその背がどんなに冷  
たく痛いか, 待つことの苦痛がどれほど凄切なものか見せてや  
る。」

例文(28)はこれまで R が味わってきた苦痛を述べた上で, これからは自分  
が「審判する」と発話したものである。これも話し手の意志なのか, 自分が  
審判をする番であることを述べているのか判断が難しい。例文(26)・例文(28)  
も‘-르게(요)’への置き換えについて母語話者に尋ねてみたところ, 例文(26)

は置換可能であり, 例文(27), 例文(28)は置換不可能であるという観察が得られた。発話された状況を見ると, 例文(26)は話し手と聞き手がよい関係であることが読み取れるが, 例文(27),(28)はよい関係とは言えない状況であるため, 話し手と聞き手の関係が‘-아(요)’と‘-ㄴ게(요)’の使用に何らかの影響を与えていると考えられる。

意志を表しているかどうか判断できない例文についてもう少し考察してみよう。

- (29) a. 오늘부터 저 일 나가요.  
b. 오늘부터 저 일 나갈게요. [作例]  
「今日から私, 仕事に出ます。」

例文(29)は, ‘나가요’を‘나갈게요’に置き換えても話し手の意志を表し, 自然な文となるが, 次のように文脈を与えるとどうだろうか。

- (30) 강 형사: 그럼 나와. 내가 저녁 사 줄게.  
수원: 고맙지만 오늘은 안 돼요.  
강 형사: 왜, 무슨 일 있어?  
수원: 오늘부터 저 일 나가요.  
강 형사: 일이라니? [투]  
姜刑事「だったら出てこい。俺が夕食おごるよ。」  
スウォン「ありがたいのですが, 今日はだめです。」  
姜刑事「何で, 何かあるのか。」  
スウォン「今日から私, 仕事に出ます。」  
姜刑事「仕事だって?」

例文(30)は「今日から仕事に出る」という発話がスウォンの意志なのか, 単なる予定を述べたものなのか判断しにくい例である。文脈からスウォンが今日から仕事に出ることを姜刑事は知らなかったことが読み取れる。この「仕事に出る」を‘-ㄴ게(요)’で置き換えることはできないという回答が得られた。発話内容から話し手と聞き手の関係もよいと判断できるのに, なぜ置き換えが不可能なのだろうか。同様の例を見てみよう。

- (31) 지영: 너한테만 미리 얘기해 줄게.  
은재: ?  
지영: 나 결혼해. 전에 말한 남자하고. [엄]  
チョン「あなたにだけ前もって話してあげる。」  
ウンジェ「?」



チヨン「私、結婚するの。前に話した男性と。」

例文(31)は直前の発話である「あなたにだけ前もって話してあげる」によってチヨンが「結婚する」ことをウンジェが知らなかったと判断でき、さらに「結婚する」という発話にはチヨンの意志も含まれるが、予定の意味がより強く出ていると判断できる。例文(30),(31)から予定の意味合いが強くなり、かつその予定を聞き手が知らなかった場合には‘-ㄷ게(요)’との置き換えが困難であるということが言えそうである。

以上, ‘-아(요)’で表現される意志がどのような状況で表れるのかについて ‘-ㄷ게(요)’への置換可否を中心に考察してきた。その結果, ‘-아(요)’で表示される意志には‘-ㄷ게(요)’の二次的な意味である約束が表れにくいことが分かった。また, 話し手と聞き手の関係がよくない発話状況では‘-아(요)’での意志表示は可能であるが, ‘-ㄷ게(요)’の使用は困難であることが分かった。そして‘-아(요)’が使用されている文脈において意志よりも話し手の予定の意味合いが強く, かつその予定を聞き手が知らない場合には‘-ㄷ게(요)’が使用しにくいことを指摘した。これは予定を述べるという点では‘-ㄷ게(요)’の告知にも同じような機能が見られるが, 話し手が全く知らない予定を述べる際には‘-ㄷ게(요)’の使用が難しいと考えられる。

#### 4. おわりに

本研究では, 話し手の意志を表す形態である‘-ㄷ게(요)’を基に, これまであまり言及されてこなかった‘-아(요)’によって表される話し手の意志に着目した。‘-아(요)’は文脈によって叙述, 疑問, 命令, 勧誘という4つの意味を表し, とり得る品詞の共起制約がない。そのため‘-아(요)’が意志を表す例文を抽出するのが困難なため, ‘-ㄷ게(요)’と共起する語彙の頻度を調べ, それを基に意志を表す例文を抽出した。その結果, ‘-ㄷ게(요)’と比較すると ‘-아(요)’の形で話し手の意志を表す例は少なく, 否定を伴う場合が多いという特徴が見られた。

そして, 意志が表れる‘-아(요)’の例文が‘-ㄷ게(요)’で置き換えが可能であるかを調べることによって, この2つの形態で表される意志にどのような違いがあるのかを考察した。その結果, 1 ‘-아(요)’が使用される際には約束の意味が表れにくいこと, 2 話し手と聞き手の関係がよくない場合, ‘-아(요)’での意志表示は可能であるが‘-ㄷ게(요)’の使用は困難であること, 3 意志よりも話し手の予定の意味合いが強く, かつその予定を聞き手が知らない場合には‘-ㄷ게(요)’が使用しにくいことを指摘した。

今回は, ‘-ㄷ게(요)’と共起した頻度の高い語彙を基に‘-아(요)’の例文を抽出したため, ‘-아(요)’で表される意志が今回扱っていない語彙でより多く表示される可能性がある。また今回は終始, 記述的な考察に止まってしまった。

意志を表す形態は‘-ㄴ게(요)’の他にもあるため、今後さらに意志表現に関する考察を進めていきたい。

### 謝辞

本研究は文部科学省科学研究費の一部を受けて行われています。本稿を修正するにあたり神田外語大学の浜之上幸先生、権容環先生に貴重なご意見を賜りました。また置換の可否については김아란氏, 박유리氏にご協力頂きました。ここに記して感謝申し上げます。

### 《註》

- 1) 用語は菅野(1991)に基づく。なお 2 節以降, 便宜上‘-습니다/-입니다’, ‘-는다/-니다’, ‘-ㄴ게(요)’のように表記し, III-요については‘-아(요)’と表記する。
- 2) 「意志」と「意図」については李(2004)で言及されている。
- 3) 意志動詞とは命令形, 勧誘形をとるものである。
- 4) ‘-습니다/-입니다’, ‘-어(요)/-아(요)’, ‘-는다/-니다’で表される話し手の意志が全て同じとは限らず, 意味的あるいは品詞の制約などに違いがある可能性がある。これらは今後の課題となる。
- 5) 1989 年の正書法改正により‘-ㄴ게’は‘-ㄴ게’と表記することになっている。しかし서정수(1996)からの引用である例文(3b),(3e)は原典のまま‘-ㄴ게’で表記した。なお, シナリオから引用した用例は全て‘-ㄴ게’で表記する。
- 6) 고창운(1995)では‘-겠다’以外に下称の‘-ㄴ다’も挙げている。  
이 일만 끝내고 갈게.  
→ 나는 그 일만 끝내고 (간다고/가겠다고) 말했다. (고창운 1995:73)
- 7) 朝鮮語や日本語では文の主語と事態の主体が一致しない場合がある。例えば배가 고프다といった場合, 文の主語は「お腹」であるが事態の主体は「話し手」となる。
- 8) <http://nslngf.com.ne.kr/si/sina.htm> よりダウンロードした。
- 9) 否定を伴った語彙は否定の分類でのみカウントしている。例えば, ‘안 그럴게요’は‘그리다’ではカウントせず, 否定‘안’でカウントしている。表 3 の分類においても同様である。
- 10) 使用した用例の出典は[ ]に略記する。詳細は本稿末尾に付す。
- 11) 吉川(1976:212-213)によると「移動をあらわす動詞(移動動詞とよぶことにする)とは, 主体の位置を変えるような動作・作用をあらわす動詞」のことであり, 「移動動詞は, 基本的意味として, 「行く」または「来る」という要素を基底にもっている」としている。
- 12) 菅野(1991:1033)では「2 つの構成要素の間に格語尾やとりたて語尾が挿入されて, あたかも 2 単語のように見えるもの」を分離用言と呼んでいる。例文(15d),(15e)のような=드리다については, 「名詞的部分と드리다とは時に分離し得, その際名詞的部分+-을/-을となる事がある」(p.260)としている。
- 13) 否定は‘안’のみが見られ, ‘-지 않다’は見られなかった。
- 14) この発話状況は叙述形‘-ㄴ래(요)’の使用の際に類似した機能が見られる。詳しくは平(2005)を参照。

### 《参考文献》

- 奥津敬一郎(1983)「授受表現の対照研究—日・朝・中・英の比較—」『日本語学』Vol.2 明治書院。
- 菅野裕臣(1991)「文法概説」早川嘉春,志部昭平,浜田耕策,松原孝俊,野間秀樹,塩田今日子,伊藤英人共編,金周源,徐尚揆,浜之上幸協力『コスモス朝和辞典—第2版—』pp.1008-

1048. 白水社.

平 香織(2005) 「現代朝鮮語の意志形に関する一考察 : ‘-lkey’, ‘-llay’を中心として」『日本言語学会第 130 回大会予稿集』 pp.164-169. 日本言語学会.

仁田義雄(1991) 『日本語のモダリティと人称』 ひつじ書房.

野間秀樹(1988) 「<하짚다>의 연구－現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって」『朝鮮學報』 第 129 輯, pp.1-73. 朝鮮学会.

吉川武時(1976) 「現代日本語動詞のアスペクトの研究」『日本語動詞のアスペクト』 p155-328. むぎ書房.

J.L.オースティン(1978) 坂本百大訳 『言語と行為』 大修館書店.

고영근(1974) 「現代國語의 尊卑法에 對한 研究」 『語學研究』 第 10 卷 第 2 号 pp.66-91. 서울大學校語學 研究所.

고창운(1995) 『서술씨끝의 문법과 의미』 박이정.

김태엽(2001) 『국어 종결어미의 문법』 국학자료원.

서정수(1996) 「서법」 수정증보판 『국어문법』 한양대학교 출판부.

安柱鎬(2002) 「終結語尾‘-르게’의 統辭的・意味的情報」 『새국어교육』 제 63 호 pp.101- 119. 한국 국어교육 학회.

윤석민(2000) 『현대국어의 문장종결법 연구』 집문당.

李燦揆(2004) 「문장에 나타나는 意圖와 意志의 意味 範疇와 상호 작용」 『語文研究』 第 32 권 제 1 호 pp.7-33. 韓國語文教育研究會.

한 길(2004) 『현대 우리말의 마침씨끝 연구』 역락.

《用例出典》

- 『고양이를 부탁해』 → [고] 『귀천도』 → [귀] 『그대 그리고 나』 → [그]  
 『기막힌 사내들』 → [기] 『나도 아내가 있었으면 좋겠다』 → [나]  
 『NO.3』 → [3] 『닥터 봉』 → [닥] 『동감』 → [동]  
 『돼지가 우물에 빠진 날』 → [돼] 『러브 러브』 → [러] 『미술관 옆 동물원』 → [미]  
 『바이준』 → [바] 『박봉곤 가출사건』 → [박] 『박하사탕』 → [탕]  
 『별은 내 가슴에』 → [별] 『봄날은 간다』 → [봄] 『BEAT』 → [B]  
 『사랑의 편지』 → [사] 『사랑하기 좋은 날』 → [날] 『세상 끝까지』 → [세]  
 『쉬리』 → [쉬] 『신장개업』 → [신] 『약속』 → [약]  
 『엄마에게 애인이 생겼어요』 → [엄] 『여고괴담』 → [여] 『연풍연가』 → [연]  
 『엽기적인 그녀』 → [엽] 『유리』 → [유] 『은행나무 침대』 → [은]  
 『일곱 개의 손가락』 → [일] 『접속』 → [접] 『조용한 가족』 → [조]  
 『지상만가』 → [지] 『찜』 → [찜] 『창』 → [창] 『초록 물고기』 → [초]  
 『클래식』 → [클] 『텔미썸씽』 → [텔] 『투잡스』 → [투] 『파란대문』 → [파]  
 『파업전야』 → [전] 『8 월의 크리스마스』 → [8] 『편지』 → [편]  
 『피도 눈물도 없이』 → [피] 『해가 서쪽에서 뜬다면』 → [해]

현대 한국어의 의지 표현에 관한 기술적 고찰  
다이라 가오리  
神田外語大學

기존의 연구를 살펴보면 ‘I-습니다/II-ㅂ니다’, 또는 ‘I-는다/I·II-ㄴ다’라는 표현으로 화자의 의지를 나타낼 수 있다는 지적이 있었는데, 같은 직설법 서술형에 속하는 ‘III-요’에 대해서는 그러한 지적을 찾아보기 어렵다.

본 연구에서는 ‘III-요’ 표현으로도 의지를 나타낼 수 있는 것으로 보고 ‘III-요’가 나타내는 의지가 어떤 것인지를 살펴보았다. 이를 위하여 ‘III-요’와 대우법 등급이 같으면서 화자의 의지를 나타내는 ‘II-르계(요)’를 그 비교 대상으로 삼았다.

두 형태의 대치 여부를 조사한 결과, 다음과 같은 세 가지 특징을 찾아볼 수 있었다. 첫 번째, 선행연구에서 지적되었듯이 ‘II-르계(요)’의 경우에는 ‘의지’ 이외에 ‘약속’과 ‘고지(告知)’라는 2차적인 의미를 파악할 수가 있는데, ‘III-요’의 경우에는 화자의 의지를 나타낼 때 ‘약속’의 의미로 해석되는 경우가 드물다. 두 번째, 화자와 청자의 관계가 좋지 않을 경우에는 ‘II-르계(요)’를 사용해서 화자의 의지를 표현하기 어렵다. 세 번째, 화자의 의지보다 화자의 예정을 나타내는 의미가 강하고 또 그 예정을 청자가 모르는 경우에는 ‘II-르계(요)’를 사용하기 어렵다.